

野外教育の『支導者』

橋本 和俊¹⁾

Outdoor leader's role

Kazutoshi HASHIMOTO

Key words : Outdoor Education, Outdoor leader, Leadership

キーワード : 野外教育, 野外活動指導者, リーダーシップ

1. はじめに

自然体験活動（以下、野外活動と同義と捉える）の指導者の役割として以下のような役割が挙げられる。それは、活動の技術・スキルや知識について教える「①インストラクター」としての役割、動植物や森のしくみなどを解説し、自然やその環境とのつながりを説明する「②インタープリター」としての役割、活動の参加者やグループへの声かけや様々な相談にのる「③カウンセラー」としての役割、グループでの活動や話し合いがうまくいくように支援する「④ファシリテーター」としての役割などである。

上記のような役割として指導者が関与する自然体験活動の代表的な活動の1つとして「キャンプ」が挙げられる。青少年を対象としたキャンプ活動の指導書として名著とされる「CAMP COUNSELING : Mitchell & Crawford著」があり、その翻訳者である兼松(1961)は、指導者の存在を、「キャンパーのひと夏の里親であり、教師であり、友人であり、信頼できる人であり、作業監督であり、模範とする人である。」と述べている。このように野外活動の指導者の役割は多岐にわたる。

そして、飯田(1992)は「キャンプを成功させ子どもに貴重な体験を与える上で鍵を握

っているのは指導者、カウンセラーである。」とし、キャンプの目標達成に及ぼす影響について述べている。加えて、永吉(1998)は、「キャンプの成否は、指導者にある」とし、指導者(カウンセラー)の重要性について述べている。そしてキャンプ指導者の資質について「人間と自然に対する深い愛情と理解がベースとして必要である。それに人間と自然の豊かな成長を育むための知識・技術、キャンプという営みを成立させるための経営にかかわる知識・技術が専門性に関わる資質として加わる。」と述べている。また、指導者の心得については「キャンプ指導者は、子ども達の成長と、全ての人々の生きがいのある生活の創造に果たしうるキャンプの可能性の大きさと責任を理解すべきである。さらに、地球環境の保全が人類共通の差し迫った課題となる中で、自然を主たるフィールドとするキャンプ活動には、自然に対する豊かな感受性を育み、自然を譲り育てることへの関心と理解を育む重大な使命が課せられていることを自覚しなければならない。」と述べている。

このように野外活動の指導者は、さまざまな役割や立場、そしてその資質や心得を持ち、指導に携わらなければならない。

しかし、このような青少年を対象にしたキャンプ活動の指導者の現状として、その指導には大学生や年齢の若いボランティアが指導

1) スポーツ学部

に携わることが多い。びわこ成蹊スポーツ大学においても初年次教育の一環として行われる「フレッシュマンキャンプ」では、グループや個人に直接的に関与・指導に携わるのは野外スポーツコースの学生である。このように、キャンプの知識や技術、そして指導経験の乏しい者が指導に携わることも想定される。

そこで、本報告では筆者が研究を行った2件についての一部を報告する。①大学生を対象としたキャンプ実習の指導者の配置の有無に着目した研究について、②青少年を対象としたキャンプの指導者のリーダーシップ(PM機能)と対人認知がキャンプモラル(集団の士気や満足度)との関連についてである。

2. キャンプ実習の指導者は必要か

K大学のキャンプ実習において、キャンプ指導者を配置できなかったキャンプ実習Aと野外教育を学ぶ大学生をキャンプ指導者として配置したキャンプ実習Bの参加学生の心理的教育効果(自己肯定意識を中心とした)の違いを検討するために準実験的な手法を用いて2要因分散分析(A vs B)を行った。統計的分析の結果、2つのキャンプ実習において参加学生の自己肯定意識合計得点と下位因子の変化には差は認められなかったが、調査時期において有意な主効果が認められた(図1.)。このことから、キャンプ指導者の配置

にかかわらず参加者はキャンプ実習を通して自己肯定意識の獲得がなされたことが示唆された。

次に、それぞれのキャンプ実習(A/B)について1要因の分散分析および多重比較を用いて分析したところ、多重比較の結果、キャンプ指導者を配置したキャンプ実習により多くの因子がキャンプ前後(PRE-POST)において有意な向上がみられた(表1.)。このことから、キャンプ指導者の配置が参加学生の自己肯定意識の下位因子の変容に影響を与えたことが示唆された。

キャンプ実習Bのキャンプ指導者は、小集団(7~8名)の1グループに対しキャンプ期間中のグループ専属の指導者(1名)として配置された。キャンプ指導者の採用にあたっては、野外教育を学ぶ研究会に所属し、事前の説明会や研修会に参加した者をキャンプ指導者として配置した(大学生や大学院生である)。事前の研修会ではキャンプ実習での指導や関与の方法として、活動での参加者やグループへの声かけや様々な相談にのる「カウンセラー」としての役割、グループでの活動や話し合いがうまくいくように支援する「ファシリテーター」としての役割があることを説明し、キャンプ指導に携わることを随時確認した。また、キャンプ期間中の毎晩のミーティングにおいても翌日のプログラムの

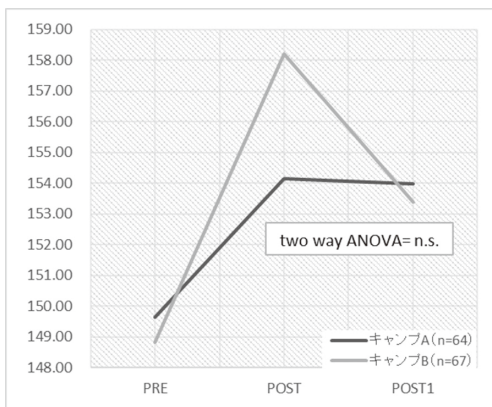


図1. 自己肯定意識合計得点の変化 (A vs B)

表1. それぞれのキャンプの自己肯定意識合計得点・下位因子の多重比較 (A & B)

	キャンプA (n=64) キャンプ指導者(無)	キャンプB (n=67) キャンプ指導者(有)
自己肯定意識尺度		
自己肯定意識合計	PRE<POST ** PRE<1M *	PRE<POST *** PRE<1M *
対自己領域	自己受容因子	PRE<POST ** PRE<1M *
	自己実現的態度因子	PRE<POST ** PRE<1M **
	充実感因子	PRE<POST *** PRE<1M **
対他者領域	※自己閉鎖性・人間不信因子	PRE<POST ***
	自己表明・対人的積極性因子	PRE<POST ***
	※被評価意識・対人緊張因子	PRE<POST **

*: p<.05 ** : p<.01 *** : p<.001

※は逆転項目の因子であり、点が高いほど、「自己閉鎖的・人間不信でない、被評価意識・対人緊張がない」となるように換算している。

指導やその関与の方法なども確認を行った。

したがって、このようなキャンプ指導者の関わりが、キャンプ指導者を配置したキャンプ実習に自己肯定意識の対自己・対他者領域のより多くの下位因子においてその向上が認められた要因であると考えられる。このことは大学生キャンプ指導者の配置の効果である可能性が示された。

3. 集団の士気を高めるキャンプ指導

青少年の教育的なキャンプを対象に、参加児童の指導者の認知や評価（対人認知、リーダーシップスタイル）とキャンプモラル（集団の士気や満足度）との関連を検討した。

その結果、キャンプ参加児童のキャンプ指導者の対人認知とキャンプモラルとの関連では、キャンプ指導者を「親しみやすい（親和性、専制・圧力的でない）」や「話しやすい（コミュニケーションがとりやすい）」と認知・評価している参加者はグループの「連帯性」や「活動意欲」が高くなり、「不満」が低くなることが示唆された。

また、キャンプ指導者のリーダーシップスタイルとキャンプモラルとの関連では、「厳しく指導してくれる（P機能）」を評価しているキャンプ参加児童は「連帯性」が高くなり、「気持ちを理解してくれる（M機能）」を評価しているキャンプ参加児童の「連帯性」や「活動意欲」が高くなり、「不満」が低くなることが示唆された（表2.）。加えて、このキャンプモラルと対人認知、リーダー

表2. キャンプモラルと対人認知・リーダーシップの相関

	n = 45	キャンプモラル			
		連帯性因子	※不満因子	活動意欲因子	規律遵守因子
対人認知	親和性因子	0.46 **	0.43 **	0.61 ***	0.26
	※専制・圧力因子	0.33 *	0.54 ***	0.24	0.17
	コミュニケーション因子	0.51 ***	0.48 **	0.62 ***	0.27
	※公的立場因子	0.12	0.2	0.03	0.08
	ユーモア因子	0.17	0.21	0.31 *	0.32 *
リーダーシップ	P機能	0.55 ***	0.12	0.33 *	0.19
	M機能	0.56 ***	0.43 **	0.55 ***	0.35 *

*: p<.05 ** : p<.01 *** : p<.001

※は逆転項目の因子であり、点が高いほど「不満」「専制・圧力」「公的立場」を感じていないことを示すように換算して算出している。

シップスタイルの関連の傾向は女子児童の方が顕著に表れることが示された。

これらのことから、青少年のキャンプにおいて、その野外活動を行う際には、個人やグループへの声かけや、様々な相談にのる「カウンセラー」としての側面がキャンプ指導者の役割として重要である可能性が示されたものと考えられる。

4. まとめ

本報告では教育的なキャンプ活動の指導者の配置有無やその指導者の役割についての筆者の2件の研究報告がなされた。本報告が野外教育の『シドウシャ』としての様々な役割やその意義について考える機会となれば幸いである。今後も自然を活用した野外教育の意義を高め、その指導について実践と研究の蓄積がなされていくことを強く願う。

参考・引用文献

橋本和俊, 遠藤浩, 前田純規 (2014): キャンプカウンセラーに対する認知がキャンプモラルに及ぼす影響, 日本野外教育学会第17回大会プログラム・研究発表抄録集, 72-73.

橋本和俊, 遠藤浩, 沈瀟 (2015): 大学キャンプ実習におけるキャンプカウンセリングに関する研究—指導体制の違いが参加学生に及ぼす影響—, 日本野外教育学会第18回大会プログラム・研究発表抄録集, 62-63.

飯田稔 (1992): 森林を生かした野外教育, (社) 林業改良普及協会, 東京, 17-20.

兼松保一 (1966): CAMP COUNSELING (A. V. ミッチェル, I. B. クロフォード共著 兼松保一訳), ベースボールマガジン社.

永吉宏英 (1998): キャンプディレクター養成キャンプ専門科目テキスト, 日本キャンプ協会